

タックル ニュース

夏号 自民党
令和 6年 8月 1日

発行：山田宏よい国後援会機関紙



「口腔の健康」が年々国の政策で重視されるのは、なぜ？

6月21日に閣議決定された来年度予算の重点方針を定める「経済財政運営と改革の基本方針2024（いわゆる骨太の方針）」では、今年も歯科に関する記載が昨年より一層充実した内容となった。

表①は、2017年に歯科分野が初めて「骨太の方針」に記載されてから毎年の記載内容の変化を示しているが、分量も内容も年々充実してきたことがわかる。毎年の「骨太の方針」の全分量が変わらない中で、ある分野が増加するということは他の分野が削減されることでもあり、歯科分野が増えていくことは、国が歯科の重要性を認めていることの証と言える。歯科記載の年々の増加は、他の分野から

驚きと羨望で見られているようで、「骨太の方針」を審議する自民党の厚労部会では、「なぜ歯科が8行もあるのに、リハビリの記述はこんなに少ないのか」と出席した議員から指摘を受け、「歯科はどんなマジックを使っているの」と別の議員からも尋ねられたくらいだ。

歯科記載の増加の理由は？

診療報酬も「骨太の方針」なども、全議員対象の自民党政調全体会議や厚労部会で何度も何時間もかけて議論を尽くすが、昨今は歯科の重要性に言及する議員が増えている。国民を代表する議員の声が多いほど、それが国の政策に多く反映されるのは民主主義の原理だ。では、なぜ歯科の重要性を指摘する議員が増えてきたのか。一つには各地域各選挙区において、長年各歯科医師連盟が、エビデンスをもとに口腔の健康が全身の健康に繋がっていることや、歯科の厳しい経営状況などを地道に訴えてきたことが地元の議員を動かしてきた。また、口腔の健康維持の重要性を取り上げるメディアが増えてきたことも大きい。

人口減少の中の経済成長は？

これからの日本の最大の国家課題は、人口減少の中でどう経済を維持成長させていくのかということだ。国の人口問題研究所によると、わが国の生産労働人口（15～65歳）は2050年には1881万人も減少すると予測している。2030年までの減少規模が295万人に対し、それ以後は急勾配で労働人口がなくなるのだ。そうなれば給料を上げても全ての分野で人手が足らなくなる。外国人労働者に頼りすぎるのは、移民に依

表① 骨太の変遷

「骨太の方針」 2017・2018・2019・2020・2021・2022・2023・2024

202406
山田宏事務所作成

【2024年】全身の健康と口腔の健康に関する科学的根拠の活用と国民への適切な情報提供、生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）に向けた具体的な取組の推進、オーラルフレイル対策・疾病の重症化予防につながる歯科専門職による口腔健康管理の充実、歯科医療機関・医歯薬連携を始めとする多職種間の連携、歯科衛生士・歯科技工士等の人材確保の必要性を踏まえた対応、歯科領域におけるICTの活用の推進、各分野等における歯科医師の適切な配置の推進により、歯科保健医療提供体制の構築と強化に取り組むとともに、有効性・安全性が認められた新技術・新材料の保険導入を推進する。（270文字）

【2023年】全身の健康と口腔の健康に関する科学的根拠の集積・活用と国民への適切な情報提供、生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）に向けた取組の推進、オーラルフレイル対策・疾病の重症化予防につながる歯科専門職による口腔健康管理の充実、歯科医療機関・医歯薬連携を始めとする関係職種間・関係機関間の連携、歯科衛生士・歯科技工士等の人材確保の必要性を踏まえた対応、歯科技工を含む歯科領域におけるICTの活用を推進し、歯科保健医療提供体制の構築と強化に取り組む。また、市場価格に左右されない歯科用材料の導入を推進する。（253文字）

【2022年】全身の健康と口腔の健康に関する科学的根拠の集積と国民への適切な情報提供、生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）の具体的な検討、オーラルフレイル対策・疾病の重症化予防につながる歯科専門職による口腔健康管理の充実、歯科医療機関・医歯薬連携を始めとする関係職種間・関係機関間の連携、歯科衛生士・歯科技工士の人材確保、歯科技工を含む歯科領域におけるICTの活用を推進し、歯科保健医療提供体制の構築と強化に取り組む。また、市場価格に左右されない歯科用材料の導入を推進する（236文字）

【2021年】全身との関連性を含む口腔の健康の重要性に係るエビデンスの国民への適切な情報提供、生涯を通じた切れ目のない歯科健診、オーラルフレイル対策・疾病の重症化予防にもつながる歯科医師、歯科衛生士による歯科口腔保健の充実、歯科医療専門職間、医科歯科、介護、障害福祉機関等との連携を推進し、歯科衛生士・歯科技工士の人材確保、飛沫感染等の防止を含め歯科保健医療提供体制の構築と強化に取り組む。今後、要介護高齢者等の受診困難者の増加を視野に入れた歯科におけるICTの活用を推進する。（230文字）

【2020年】細菌性やウイルス性の疾患の予防という観点も含め、口腔の健康と全身の健康の関連性をさらに検証し、エビデンスの国民への適切な情報提供、生涯を通じた歯科健診、フレイル対策・重症化予防にもつながる歯科医師、歯科衛生士による歯科口腔保健の充実、歯科医療専門職間、医科歯科、介護、障害福祉関係機関との連携を推進し、歯科保健医療提供体制の構築と強化に取り組む。（173文字）

【2019年】口腔の健康は全身の健康にもつながることからエビデンスの信頼性を向上させつつ、国民への適切な情報提供、生涯を通じた歯科健診、フレイル対策にもつながる歯科医師、歯科衛生士による口腔健康管理など歯科口腔保健の充実、入院患者等への口腔機能管理などの医科歯科連携に加え、介護、障害福祉関係機関との連携を含む歯科保健医療提供体制の構築に取り組む。（167文字）

【2018年】口腔の健康は全身の健康にもつながることから、生涯を通じた歯科健診の充実、入院患者や要介護者をはじめとする国民に対する口腔機能管理の推進など歯科口腔保健の充実や、地域における医科歯科連携の構築など歯科保健医療の充実に取り組む。（112文字）

【2017年】口腔の健康は全身の健康にもつながることから、生涯を通じた歯科健診の充実、入院患者や要介護者に対する口腔機能管理の推進など歯科保健医療の充実に取り組む。（75文字）

存してきた欧州の今日を見れば慎重でなければならぬとすると、これまでの仕事の省力化を進め、ITやロボットやAIの活用を広げ、その上で女性や高齢者の働きやすい職場を作っていく必要がある。そしてその場合、何歳になっても元気でいられることが極めて重要だ。健康寿命の延伸は、その人の人生にとって大切なだけでなく、「働きたい人がいつまでも働ける」社会を通じて国の経済を維持成長させていくためにも大事になってくる。口腔の健康から全身の健康を維持していくことが、国の政策で重みを増しているのは、こういった時代の大きな流れの中にあるからだ。

山田宏の タックル ニュース



4回の厚労委員会での山田宏の質問が、 「骨太の方針2024」につながりました!!

1. 災害用歯科診療車の配置(4/2)

Q. (山田) J-DAT (緊急歯科医療チーム) が能登半島地震で活躍したが、医科と異なり歯科の場合は、診療機器だけでなく電源や浄水器が必要で、それを運ぶ車も必要。この際災害用歯科診療車の配置を進めてほしい。

A. (濱地厚労副大臣) 厚労省はJ-DATと連携して活動してきた。そのような機材は、災害時だけでなく平時においても、その活用方法や整備等を検討し、災害時における歯科保健医療体制の整備に努める。

2. 国民皆歯科健診の意義と今後の進め方(4/24/18)

Q. (山田) 国民皆歯科健診の意義と目的は?

A. (濱地厚労副大臣) 人生百年時代の到来の中、健康で豊かな生活を送るためには、歯科口腔分野においても各ライフステージにおける健康づくりが大変重要。近年では、年代を問わず口腔の健康が全身の健康につながる事が指摘されており、厚労省としてもこの生涯を通じて歯科健診の実現に向けて取組を進める。

Q. (山田) 口腔の健康が全身の健康につながる具体例としてどのようなものがあるか?

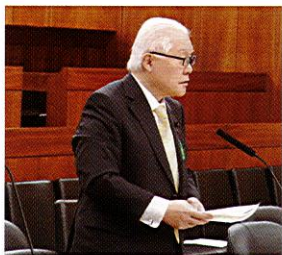
A. (濱地厚労副大臣) 歯周病と糖尿病、心血管疾患、疾病や又呼吸器疾患を含む口腔と全身の健康の関係。施設での高齢者に対する口腔健康管理が肺炎関連死亡を防止するとも示唆されている。さらに歯周病が早産や低出生体重児のリスクファクターとなり得る可能性や内臓脂肪型肥満が歯周病の誘因となる可能性も報告がある。

Q. (山田) 皆歯科健診を進める予算で簡易キットの開発等をどのように展開していくのか?

A. (武見厚労大臣) 今、5企業が検体検査やアプリ



4月2日、18日の質疑の様子はこちらからご覧いただけます。
(字幕付) 限定公開。



3. 歯科衛生士と歯科技工士の 人材確保について(5/9)

等の運用化に向け着実に開発を進めている。今後これらの歯周病スクリーニング検査を活用した歯科健診モデル事業の中で活用していくことを検討する。

Q. (山田) 衛生士不足の現状を国はどう認識しているのか?

A. (医政局長) 就業している衛生士の数は年々増加しているものの、免許取得者数が約30万人であるのに対し、就業者数は約14万人であり、衛生士の就業率を上げるための取組が必要と認識している。

Q. (山田) 技工士不足の現状についての認識は?

A. (医政局長) 若手の技工士の減少と就業技工士の高齢化で、今後入れ歯等の需要の増加に対応する、特に若手技工士の確保が喫緊の課題と認識している。

Q. (山田) 衛生士も技工士もこれまでの政策が結果につながっていない。そこでこれまでの政策を見直して、何年までに何人確保する、そのためには何をやるという政策を検討するための会議を設置してはどうか?

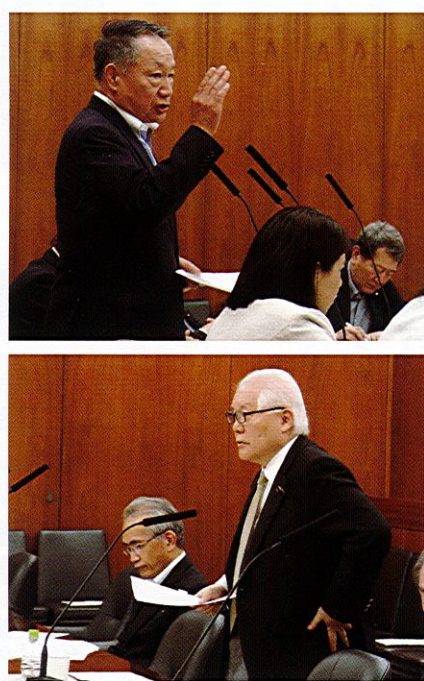
A. (濱地厚労副大臣) 既存の事業についてしっかりと検証を行い、今後は成果目標を設定して、その目標に向けて取り組む。そのため今後の政策については、総合的な抜本的な検討を行うため、ご提案の会議体の設置も含め、しっかりと検討していく。

4. 医科歯科連携の推進について(5/30)

Q. (山田) 最近アルツハイマー病、心疾患、大腸がん等も口腔内疾患との関連を指摘する知見がでてくるが、今後はこれらについても診療報酬上、きち



限定公開。5月9日の質疑はこちらからご覧いただけます。
(字幕付)



と評価して医科歯科連携を進めていく必要があると考えるが、大臣のご所見を伺う。

A. (武見厚労大臣) 口腔の健康と全身の健康との関係性については、近年様々な報告がなされており、こうしたことを踏まえて医科歯科連携の推進に向けた取組が重要と認識している。医科歯科連携に係る診療報酬上の評価については、今後とも関係学会の提案を踏まえ、必要に応じて中医協で議論を進めていきたい。

5. 医学部における口腔疾患と全身疾患の 関連性の教育充実について(5/30)

Q. (山田) 口腔疾患と全身疾患の関連性について医師側での認識が十分ではないのではないか。医学部教育での教育の充実を求める。

A. (文科省大臣官房審議官) 医学部生が口腔疾患と全身疾患の関連性について学習することは大変重要だと考える。文科省は医学教育の必須の学習目標等を示したモデル・コア・カリキュラムを定めており、その中で医学部生は歯周病等の歯科疾患について、全身への影響も含めて学ぶことになっている。今後、各大学医学部長が集まる会議などで周知していく。

6. 病院歯科の重要性について(5/30)

Q. (山田) 病院歯科がなかなか普及しない原因は何か?

A. (医政局長) 一般の市中病院の中でのニーズが余りなかったが、足利赤十字病院等の事例からも病院経営の観点からも又患者さんのためにもなるというエビデンスも出てきているので、そういった効果や事例を集めて周知していきたい。

「山田宏のYouTubeチャンネル」▶
(毎週土曜日配信)
月1回歯科のテーマでお話してます。



「山田宏の
デンタルマガジン」▶
月2回配信中!



限定公開。5月30日の質疑はこちらからご覧いただけます。
(字幕付)

山田宏(やまだひろし)
プロフィール (2024.1現在)

参議院議員

自由民主党 副幹事長

朝日大学歯学部客員教授

昭和33年(1958年)1月8日生まれ。

京都大学法学部卒業。

松下政経塾第2期生。

東京都議会議員(2期)・

衆議院議員(2期)・

杉並区長(3期)

山田宏よい国後援会 歯科部会にお入り ください!

「生涯を通じた歯科健診」の法制化を目指し、歯科口腔医療の大切さが広く国民に浸透するよう働いてまいります。ぜひ、ご入会いただき山田宏の活動をご支援いただけますようお願い申し上げます。



お申込みは
こちらから↓



山田宏の日々の活動は、ホームページ、フェイスブック、
ツイッター、YouTubeでご紹介しています

山田宏公式サイト:

www.yamadahiroshi.com

山田宏公式Facebookページ:

<https://www.facebook.com/yamadahiroshi.page/>

山田宏公式ツイッター:

@yamazogaikuzo

公式サイト



Facebook



ツイッター



お問い合わせは
こちらにお願い
いたします。

山田宏 国会事務所

〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1 参議院議員会館1205号室

Tel.03-6550-1205 Fax.03-6551-1205